



富士森公園の「平和」像

富士森公園は八王子市最初の公園として一八九六年（明治二十九年）に開園。公園のある丘陵地は、古くから「富士森の丘」と呼ばれ、公園名はこれに由来している。いまでは周辺の開発により富士山を見ることができない。現在のような公園整備は昭和二十一年から始められ、野球場、陸上競技場、テニスコート、等の整備が進められ、運動公園として多くの人々に親しまれている。また、園内には富士浅間神社および富士塚、戦没者慰霊碑などもある。

今は四季にわたり様々な行事が催されており、桜祭り、さつき展、花火大会など、多くの人々で賑わう。

戦後暫くの間、富士森公園の一角に、廃棄になった旧日本軍の高射砲が取り残されていたが、今はその跡に「平和」の像が建てられている。

◇散歩のみどころ

京王線山田駅前より出発し、同駅に戻って来る凡そ5kmの行程。駅前の都道五百六号線を右へ。一つ目の信号を右、十分程で雲龍寺に着く。ここから北へ歩き、山田川を渡ると廣園寺。市内で都の重文が一番多い古刹である。更に北へ、朝日ヶ丘新道を横切り、御所水弁財天へと向かう。市内で一番美人の弁天様であるといわれている。弁財天を出ると富士森公園である。スポーツ施設の他に、遺跡の多い公園でもある。体育館前交差点を東の方へ、少し歩くと直入院。五智如来が安置されている。直入院を下ると、塩なめ地蔵や稚子塚のある萬福寺がある。山田川沿いに出て西へ歩き、赤根橋（月見橋）が見えた所から川沿いに東側へUターンし、木根橋を渡る。おはな地蔵やお助け地蔵などを拝しながら鎌倉古道を歩く。古道の途中から折れて、山田駅へと帰って来る。解散。

①天海山雲龍寺

八王子市山田町一六八八の二

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦如来

開基 隨翁舜悦ト山上人

開創 天正八年（一五八〇）

曹洞宗福井永平寺、横浜鶴見総持寺の大本山に次ぐ曹洞宗格地。元、八木町三年坂脇（元本郷村）にあった。昭和三十八年（一九六三）区画整理により山田町に移転している。明治期に一時衰退したが、その後復興。昭和二十年（一九四五）、太平洋戦争によって本堂が焼失。山田町に移転後、本堂・鐘楼・客殿等を整備する一方、一九七五年四月、曹洞宗格地に昇格した。スリランカ寺院僧の修行も行っている。伽藍も南大門・北大門・本堂・客殿・五重塔（高さ四十五m）など次々と整備を図っている。境内には延享年間の車地藏・十八mの大塔婆・全国一の達磨像などがある。



日本一という達磨大師



雲龍寺五重塔

●舜悦ト山和尚の生地

多摩郡奈良原村（現在の檜原町）

ト山の生まれは百姓の娘が旅僧の夢で胎内に子を宿したといわれる。未婚の母のため家を追われ小津村（現在小津町）のがきが谷戸山中の大きな木の根元に赤子を捨てる。元氣な赤子で大きな声で泣き、七つの山・七つの谷をも越えて聞こえる声に心源院の老僧が引き取った。成長するに、努力・勤勉・勢力益々その偉大さを発揮し、北条氏康・氏照の支援を受けた。また、武田信玄の娘松姫様にも関係が深く良く面倒を見たそうだ。

随翁舜悦（ト山和尚）は心源院第六世となり、宗閑寺・信松院・雲龍寺・興岳寺・宝珠寺・暉窓寺・良泉寺の開山。

永正十六年（一五一九）広園寺で出家の後、諸国へ修行に出る。



舜悦ト山和尚の像
（現在、雲龍寺にこの像はない）

●念仏車地藏尊

地藏尊の台座に願掛けをするとき回す輪があることから「車地藏尊」と呼ばれている。長い間に地藏さまも大変痛んでしまった。今から二百六十年前の延享三年（一七四六）雲龍寺第五世実門和尚の時、修験者円開慈心と檀家、それに本郷村の有志が痛んだ地藏さまを産寧坂（三年坂）に再建したという。
大正の始め八木町にあった雲龍寺の境内に地藏さまを移した。毎月二

十四日の縁日には露天商や小屋掛が並び大層な賑いをみせたという。
さらに昭和三十八年甲州街道バイパス建設に伴い、寺と共に現在地に移転、車堂に安置、交通安全を願う「車地藏尊」として慕われ、車と名の付く物が納められていた。今は、きれいな車地藏堂になっている。



念仏車地藏尊

●三年坂

鎌倉時代、今から八百年前、鎌倉街道の道筋に奇妙な坂があった。以前（現在の八王子市立第二小学校東側周辺）あった雲龍寺門前の坂だという。坂の下に川があり、落ちたり怪我をして血をみると三年も経たぬ

うちに死ぬといわれ、土地の人から恐れられ「三年坂」と呼ばれていた。その頃、鎌倉幕府五代執権北条時頼が建長寺を開基し、中国の高僧蘭道溪隆に師事、仏門に入り諸国行脚の旅に出た。その折三年坂に至り、坂道を改修し、安産子育て地蔵を安置した。坂の呼び名も「産寧坂」とした。



三年坂の灯籠と車地藏堂

● 通りやんせ（わらべうた）詩碑

作者不明・編曲本居長世

「通りやんせ通りやんせ

ここはどここの細道じゃ

天神さまの細道じゃ

ちよつと通してくださいやんせ

ご用のない者通しやせぬ

この子の七つのお祝いに

おふだを納めに参ります

行きはよいよい 帰りはこわい

こわいながらも

通りやんせ 通りやんせ」

江戸期、厳重をきわめた箱根の関所のあり様を遊び歌にしたものといわれている。「通りやんせ」「かごめかごめ」「あんた方どこさ」など代表的な関所遊び歌である。

また、亀戸天神の太鼓橋を連想し、天神参りをしている様子を歌ったともされている。歌われるようになったのは幕末頃からではないかという。ちなみに、亀戸天神は大宰府天満宮を真似て造られている。



通りやんせ わらべうたの詩碑



通りやんせ

②兜率山傳法院廣園禪寺

八王子市山田町一五七七

宗派 臨濟宗南禪寺派

本尊 弥勒菩薩

開基 大江広元(師親)の後裔

長井道広

開山 峻翁令山和尚

創建 康応元年(一二八九)

現在の建造物は江戸時代の再建であるが、総門・山門・仏殿が南北一直線に並び、その奥に本堂・庫裏・開山堂が東西に配置されるという代表的な臨濟宗寺院の様式を保っている。庭園も含めた境内一帯は、東京都の史跡に指定されている。

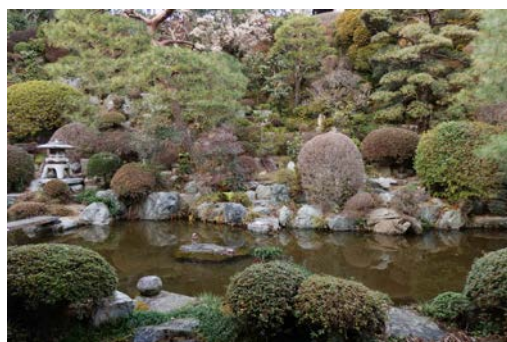
本堂前のしだれ桜が満開となる頃、

四月六日に

令山和尚の遺徳をしのぶ開山忌が行われる。



弥勒菩薩



方丈庭園



廣園寺通用門

●木造法光円融禪師坐像 匳

寄木造り、玉眼。像高七十四・五cm。老貌で警策を持つ。開山堂に安置され、通常見ることはできない。法光円融禪師(ほうこうえんゆうぜんじ)とは、開山峻翁令山の勅諡名である。製作者・製作年代はともに不明であるが、力強い表現で禅師の風貌を伝えている。



峻翁令山和尚像



木造法光円融禪師坐

●総門（四脚門） 都

総門は禅宗寺院では表門のことで、その構造は、四脚門、切妻造、檜皮葺型銅板葺で両袖塀各一間がついている。文政十三年（一八三〇）の再建で細部の技法から江戸時代後期の特徴をよく表している。



総門（四脚門）

●山門 都

山門の構造は、三間二重門、入母屋造、上層檜皮葺型銅板葺、下層板葺型銅板葺で細部の技法が仏殿と類似しているので総門と同じ江戸時代後期の再建と思われる。



山門

●仏殿 都

仏殿は桁行三間、梁間三間単層、寄棟造で文化八年（一八一）の再建。平成十五年に全屋根葺き替えている。



仏殿

●鐘楼 都

鐘楼は、桁行一間、梁間一間、屋根一重、宝形造、檜皮葺型銅板葺で天保十三年（一八四二）の再建。附の銅鐘には応永四年（一三九七）及び応仁二年（一四六八）の旧銘及び慶安二年（一六四九）の改鑄銘があり、鑄名の末尾に「武州滝原住加藤甚右金吾吉重」とある。



鐘 楼



仏殿内に安置
されている
文化財の古鐘

●無病願い「鉢かぶせ」

伝統行事として、子どもの無病息災を祈願する「鉢かぶせ」がある。この行事は約六百年前、同寺周辺で、子どもの病気が流行したとき、法要で打ち鳴らす「妙鉢」と呼ばれる仏具をかざすと、病を引き起こしていた虫が驚いて逃げ出したという伝説に由来する。子どもの健やかな成長を願ったものであり、微笑ましい行事といえよう。



鉢かぶせ

●廣園寺 七不思議

①女井戸（めいど）

峻翁令山和尚が開山された頃のこと。兔を食べた二ノ宮明神は喉に骨を刺してしまふ。困った明神は、身を女体に変えて廣園寺の和尚の所へやってきて「骨を抜いてほしい」と懇願する。和尚が読経祈祷をして骨は取れた。明神はお礼にと霊水を奉納した。傍に控えていた小僧が和尚に「なぜ霊水か」と尋ねると、和尚はさっと女体の袖をめくりあげた。すると大蛇の姿が現れた。霊水はその後、も洩れることなく湧き出るようになり、今も方丈裏の池水となっている。



女 井 戸

② 廣園寺で打ち鳴らす太鼓

開山忌で読経する時に打ち鳴らす太鼓の音は、遠く離れた二ノ宮明神まで聞こえたという。これを耳にした宮総代は直ちに馳せ参じるのが習いだったという。今は絶えている。

③ 蛇塚

境内の西隅に蛇塚がある。二ノ宮明神が大蛇に姿を変えて廣園寺に救いを求めてきた故事に因み、その霊を祀っている。

④ 男井戸（おいど）

峻翁令山和尚在世の頃、山田辺りはひどい旱魃に遭った。農民はもちろん、多くの人々が一杯の飲み水にも困り果てていた。そこで和尚は三日三晩の雨乞いの祈禱を続けた。降雨は雷鳴を伴い、大きな堀まで残したという。今では、井戸跡の近く山田小学校南側道路上に、ウワミズザクラの木と共に表示され、昭和の中頃まで雨乞いの祈禱が行われていた。

⑤ 鐘田

女井戸傍の畦道に小さな田があった。作物が育たず不毛の田といわれていた。これを憂えた和尚は鐘を田に沈めて祈禱すると、実り豊かな田に一変したという。この水田一帯は明治中頃まで耕作が行われていた。当時は塩を撒く催事があったという。

⑥ 玉手石

開山堂の前に丸い大きな石がある。境内の外にあった石が通行の邪魔になるため和尚が投げた先だという。その後「遺愛の石」とされた。

⑦ 虫塚

ある年、田畑に害虫が多く発生し農民を困らせた。和尚が退治祈願を重ねると、あまねく死滅した。しかし命あつたものの供養は大切と考え、農民たちが持ち寄った虫を埋めて塚を作ったという。



玉手石



男井戸



お手玉地藏



虫 塚

③御所水の里

南朝派貴族の落人伝説遺跡
八王子市に「御所水」と称する地名が残されている。今の八王子市台町周辺であるが、近くの富士森公園内の都立富士森高校が移転した跡と市営野球場から陸上競技場のあたりは、往時のおもかげが全く失せている。
この御所水は、南北朝動乱時代に、南朝派の高貴な人が落ちのびてきたという南朝伝説遺跡地でもある。伝



蛇塚(右:疣とり地藏)

説には、天皇のお墓があった。官方の奥方（夫人）が葬られている。公卿の隠れ家があったなど諸説がある。そして、御所水は南朝の桜林御所の所在地だったというのである。「南朝」とは、後醍醐天皇の南朝と光明天皇の北朝の二王朝時代。建武二年（一三三五）足利尊氏は京から関東へ出陣する。北条高時の遺児、北条時行が鎌倉を占拠する事件（中先代の乱）が起き、これの鎮圧を命じられたのである。尊氏は八月に京を出て十月には鎌倉を奪還するが、そのまま鎌倉に留まり天皇に対して反旗を翻したのである。一説には征夷大將軍に任じられなかったためと伝えられている。後醍醐天皇は新田義貞を尊氏追討のために派遣をするが、箱根竹ノ下の戦いで新田は敗北。勢いに乗った尊氏は京に攻め上がるが、ここでは敗北して、九州へ逃走。再び武士勢力を結集して、摂津湊川の戦で楠木正成を破って入京し、京を制圧するが 翌建武三年（一三三六）

尊氏は持明院統の光明天皇を即位させて、十七条からなる「建武式目」を作成し政治方針を示して幕府を開く準備を進める。

一方の後醍醐天皇は吉野に逃れて皇位の正統を主張。ここに「南朝」が誕生し、以後約六十年間にわたって京の「北朝」と対立する「南北朝時代」が始まる。



御所水入口にある辻地藏



御所水辨財天



御所水弁財天



御所水弁財天



富士森公園競技場

④富士森公園

八王子市台町二・三

桜の名所として市民の憩いの場となっている富士森公園は、浅間神社の鎮守の森であったところである。明治二十九年（一八九六）に富士森公園として開園、今日に至る。広大な公園の敷地内には、市営の野球場・体育館・グラウンド・テニスコートなどの運動施設が整えられている。

● 浅間神社

江戸時代初め、八王子の代官頭であつた大久保石見守長安が、高さ約六呎の塚を築き、その上に浅間神社を勧請したと伝えられている。この塚は富士信仰で「富士塚」と呼ばれ、「富士森」命名の起源となっている。

また、南北朝時代（十三世紀）にこの地に落ちのびた、南朝方の女公家「お富士の方」が塚を築いたものが「富士塚」と呼ばれたという伝説もある。台町二丁目の辺りは江戸時代は御所水村と言われ、南朝の落人伝説が残っている。

浅間神社の拝殿は大正天皇の葬儀に使われた祭場殿を移築したもので「大正殿」とも呼ばれる。神社の例祭は八月一日で、前夜の七月三十一日には境内で厄除け団子を売るだんご祭りが行われている。



富 士 塚



浅間神社



富 士 塚



このはなのさくやびめ
木花開耶姫

●浅間神社例祭

七月三十一日は、浅間神社の祭礼が執り行われる。浅間神社は、富士森公園に隣接し、市民体育館の東隣りに位置し、台町・万町二丁目等の氏神様として、昔からこの周辺の住民の信仰を集めてきた。

浅間神社は、木花開耶姫を氏神とし、富士浅間様とも言い、慶長年間大久保石見守長安（徳川幕府創立の頃の関東総代官で、当時今の小門町に居住していた）が、駿河国の本宮浅間神社を分社し、現在の地に高さ約二丈、周囲六十間余りの塚を築き、頂上に浅間神社を勧請したのが起源となっている。

宝永年間（一七〇四～一七一一）社殿が破壊に及び、延享二年（一七四五）改めて石造りの社殿を再建したのが現在の本殿であり、天明六年（一七八六）には石の階段が造られている。例祭は、七月三十一日の夕刻の湯の華の神事から始まり、昔は夜の祭

りとして八月一日の未明まで続いた。参道から境内にかけてたくさん露店が並び、特に当夜売られる団子は有名で、これを食べると暑氣にあたらぬとの言い伝えから「団子祭り」とも呼ばれる。この団子祭りの起りは、明治中頃社頭に居住して、宮守をしていた者が、神社に献じた洗米で団子を作り希望者へ分与したのが始まりで、当夜は市内はもとより近郊からも参拝者がたくさん集まり賑う。

●富士森の大正殿跡

台町富士森公園内。大正天皇の葬儀に使われた祭場殿を下賜され、昭和二年（一九二七）十二月二十五日に移築したもので、同時に忠魂碑も建設された。戦後、荒廃が進み、昭和二十八年（一九五三）浅間神社の拝殿として移築された。

●八王子招魂社

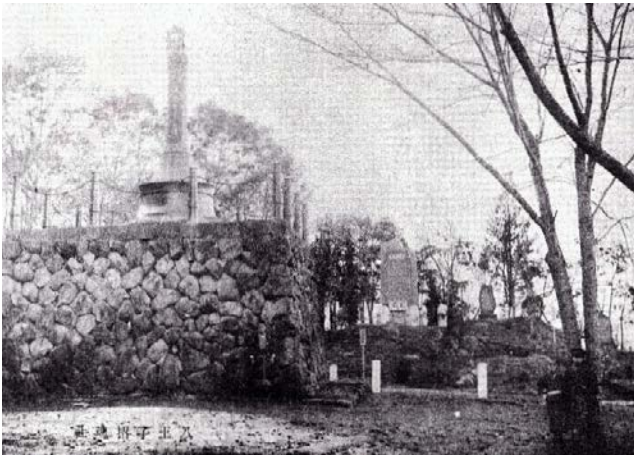
大久保長安が勧請したと伝えられる浅間神社の丘は、富士森と呼ばれて親しまれていた。

明治二十九年（一八九六）四月八王子町は、富士森に報国忠魂碑を建立し公園を設置した。（富士森公園）八王子招魂社とはこの報国忠魂碑のことで明治十年（一八七七）の西南の役、及び明治二十七年～八年（一八九四～五）の日清戦争での戦病没者の霊を祀った碑に、国家が社格を与えて招魂社と称した。



灯籠（明治39年）11月建立
八王子軍人会

石川日記や磯沼家文書によると実際碑が完成したのは十一月で、同月二十三日に招魂祭が行われたようだ。明治三十九年（一九〇六）日露戦争戦病没者の霊を合祀した。八つの石垣の上にそびえる青銅製の塔が忠魂碑である。第二次大戦後昭和二十一年十二月三十一日に撤去された。



八王子招魂社（明治40年代）

● 「平和」の像

富士森公園内には平和像がある。「八王子市は先の第二次世界大戦において大きな戦禍を被り、多くの尊い人命が犠牲になりました。このような戦争による悲惨な生活は再び繰り返してはなりません。よって非核平和都市宣言十周年にあたり世界の恒久平和を願う市民の平和の象徴としてここに平和の像を建立します」

平成五年一月 八王子市

また八王子市は既に、昭和五十三年十二月二十一日世界連邦平和都市宣言、昭和五十七年六月二十九日八王子市非核平和都市宣言をしている。



平和の像



八王子海軍わだつみ会記念樹碑



忠霊塔



射撃訓練の碑



日清・日露の慰霊碑



奥津雁江の碑

●奥津雁江の碑

明治期の私立学校教師。相模国足柄の出身、本名定次郎、漢学を今川象外に、国学を吉田信行に学ぶ。その後八王子の本町に住む。明治十四年（一八八一）忠愛夜学校を創設、学齢を過ぎた者に忠君愛国を説く。大正七年（一九一八）七十八歳で没、元横山町の大義寺に眠る。

辞世に「独笑のとらひの贅（いぼ）や石一つ残して帰る阿字不生国」の歌碑がある。奥津雁江の碑は、富士森公園東側の斜面にある。

⑤直入院

じきにゆういん

宗派 浄土宗の単立寺院

八王子市緑町二二三

山号は報土山と称し、本尊は運慶作と伝えられる阿弥陀如来で、札所本尊は上宮太子作と伝えられる聖観音。

何度も空襲に遭い本尊をはじめ諸尊像は消失。現在、直入院に祀られているのは千手観音と聖観音の二体である。江戸時代から小門町にあったが、戦災により焼失したため、戦後緑町に移転した。



直入院

●石造五智立像

直入院の山門を入ってすぐ右手に五体並んでいる。向かって右から順に釈迦・阿弥陀・大日如来の三体は延宝八年（一六八〇）に、阿闍（あしゅく）・宝生如来の二体は元禄四年（一六九一）に建立されたものである。江戸の石工の手によって造られたもので、元禄の江戸文化を伝えている。

五智如来（ごちにょらい）は、はじめ小門町の蓮生院の門前に建てられていたが、昭和二十年（一九四五）、戦災により蓮生院が焼失・廃寺となったため、同二十九年元横山町の帰西寺に移された。帰西寺も昭和三十三年（一九五七）、区画整理による移転を機に直入院と合併したため、現在地に再移転したものである。

小門町にあった当時は、縁日にとってもろこしを売る露天が並んだことから「ともろこし地蔵」として親しまれた。



五智如来（五人地蔵）

●ともろこし地蔵

五智如来は俗称で五人地蔵といい「ともろこし地蔵」とも呼ばれた。明治末期、大勢の人を集めた小門町の蓮生院の「四万六千日」に、近くの農家がともろこしを売っていたためこう呼ばれた。

甲州街道を八幡町から南へ少し入った右側に、この蓮生院はあった。今、お風呂屋さんがあるとところである。まだ、ほとんど桑や茶、麦などの畑で囲まれていたが、お神楽や芝居

なども出て、大変な人出だった。

この五人地蔵は、三百年ほど昔、広厭坊という名僧が托鉢で寄付を集め、源兵衛という石屋に作らせた等身大の石像である。それ以来、この通りを「広厭坊横丁」と呼んだ。

関東大震災では倒れてかなり破損したため、すぐ修復。さらに、戦災で蓮生院が焼け、住職も居なくなつたが、ともろこし祭だけは続けられた。昭和二十八年、小谷横丁の帰西寺に引き取られ、祭も一時、昔の賑わいを取りもどした。しかし昭和三十三年区画整理のため、緑町霊園内の直入院に移転させられた。今は訪れる人もなく静かに立っている。

●肥沼信次の墓

こえぬまのぶつぐ

ドイツベルリンから東へ六十kmほど離れた古都リーツェン。土地の王侯などの墓もある墓地に、一人の日本人が眠っている。彼の命日には毎

年、リーツェン市長をはじめ多くの市民が集まり、その功績を讃える式典が行われている。この日本人とは、八王子市出身の医学博士・肥沼信次である。

信次は明治四十一年（一九〇八）八王子町中町に肥沼医院を開く父梅三郎と母ハツの長男として生まれた。父の厳格な教育のもと嫌いだっただ数学の勉強に尋常小学校高学年のころから力を入れ出す。府立第二中学校を卒業後上京し、昭和三年（一九二八）に日本医科大学に合格。学生時代の信次はドイツ語の高等学校の本を読み漁り、教授にも一目置かれていた。

昭和九年（一九三四）に大学を卒業、東京帝国大学医学部中泉、放射線医学教室に入室。放射線の研究者として将来有望な彼は十二年の春政府の給費学生の身分でナチスの台頭するドイツのベルリンに向けて旅立つ。

ドイツではベルリン大学放射研究

所の客員研究員として迎えらる。その後世界的に権威のある「物理学のための雑誌」などに数々の研究論文を発表し昭和十九年にはドイツ人でも資格の困難であるハビリティーレン（正教授）の地位まで登り詰めた。そのころドイツは敗色濃くなり連合軍の激しい爆撃にさらされるようになっていった。やがて翌二十年四月にソ連軍がベルリンに迫る。その前月日本大使館の関係者などは西へ逃げたが信次は夫を亡くして困っていたシュナイダー母娘を連れてベルリンから東へ。その後九月に占領軍のソ連軍司令官からリーツェンの伝染病医療センターの所長に任命された。

当時リーツェンの周辺ではチフスやマラリヤなどの伝染病が猛威をふるっていた。常に八十人ほどの重症患者がにいるセンター

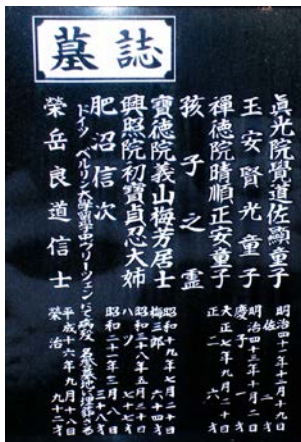


肥沼信次
(日本医科大学卒業)

には看護婦が七名いたが、そのうち五名が亡くなるほどだった。センターのただ一人の医師であった信次は激務の合間をぬい隣村などの患者も往診する。また患者を助けるため医療器具を求めて荷馬車で何十kmも駆け回る、そんな毎日が続いた。

しかし、激務が重なり翌年二月ころ発疹チフスに侵されてしまう。センターではそんな素振りも見せずに皆を励ましていた。彼もついに病魔には勝てず、昭和二十一年三月八日、三十七歳の短い生涯を終えた。

自分の命をかけてリーツェンとその周辺の人々を救った男、肥沼信次は多くの人々の心の中に生きている。



墓 誌

⑥ 摩尼山寶珠院萬福寺

八王子市緑町二三五

宗派 真言宗智山派
 ご本尊 大日如来
 寺宝 毘沙門天像
 開基 清海上人
 創建 元信州諏訪氏の武将であつた清海上人
 開創年 天福年間（一一三三～一三三四）



肥沼家の墓



萬福寺

多摩四国八十八札所第七十二番札所。天正十九年（一五九一）御朱印五石を拝受した。その後、享保年間（一七一六～一七六六）に合慶上人により中興され、江戸期には御所水弁財天の別当であつた。大正十年（一九二一）寺領を市営霊園と多摩少年院の敷地に提供し、現地に移転。現本堂は昭和二年（一九二七）宮大工小町小三郎の手になるものである。

● 五輪塔の稚児塚

鎌倉時代の五輪塔といわれている。この稚児像は、以前萬福寺の寺領だった今の多摩少年院内に安置されていたという。昔の伝えでは、源頼朝が帰路の折、夕餉（ゆうげ）の毒見役となった稚児のひとりがキノコの毒にあたり亡くなった。哀れに思つた頼朝が、五輪塔を建て懇ろに供養したという。ただし、この五輪塔が亡くなった稚児のものかどうか定かではない。



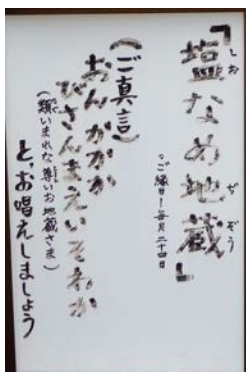
五輪塔の稚児塚

●塩なめ地蔵

塩なめ地蔵の建立は不明だが、古いことは確かである。以前は代々住職の墓の近くにあったという。ところで塩は生活に欠かせないものであり、江戸や鎌倉には塩に関する地蔵が沢山ある。塩を運ぶための安全や、貴重な塩を無駄にしないために建立したという。しかしこの塩なめ地蔵がそうであったかは不明である。



塩なめ地蔵



⑦山田川

山田小学校西のめじろ台団地一丁目付近から東北に流れ出し、北野町で浅川に注ぐ。流長六・三km、流域五km²。水源は二カ所あり、廣園寺前で合流している。緑町付近は、僅かだが昔の風情を残している。



山田川

●月見橋（赤根橋）

新編武蔵風土記稿には「山田川に架せる板橋なり、此邊の字を赤根と云、土人の話に頼朝此橋上にて月を見しと、長四間幅八尺」と記されている。今の月見橋は後にできた新道で、鎌倉期には当然無い。旧道である今の赤根橋が別の名を月見橋と言われている。



月見橋（赤根橋）

⑧子育て地蔵

緑町九九

昔からこの地で子育ての地蔵として、我が子の安全と成長を願って多くの人々から崇拝されていた。前列の二つの小さなお地蔵様は、童の地蔵である。かつての管理者はなさんに因んで、おはな地蔵とも呼ばれている。



子育て地蔵



赤根橋

⑨お助け地蔵

昔、山田川の水量は多かった。この川に、叶わぬ恋に悲嘆して若い娘が身投げをして命を絶った。両親は悲しみにくれながらも、川辺に慈愛にみちたお地蔵様を建立した。死後の成仏と、供養にと祈りを込めたこの地蔵さまが「お助け地蔵」である。



お助け地蔵全景



地蔵尊

● 姫竜神

水や川の女神である。昔から村落の人々は、願いを叶えてくれる神様として崇拝していた。二拝二拍手して願いごとを念じ、「お願い申し上げます」と手を合わせ一拝して下がる。または、願いごとを書き、姫竜神の祭日（毎月十八日）にお参りするなど、信心を一心に祈った事であろう。



姫竜神

●馬頭観世音

緑町は昔、由井村字小比企と呼ばれていた。鬱蒼とした樹木の山道を七国峠へと辿り、峠を越えて小田原街道へ行くのに、馬は暮らしの中で無くてはならないものであった。

馬頭観世音は、道中の安全と、馬の守護を願い各地で祀られている。この場所も、その名残りかと思える。



馬頭観世音

⑩鎌倉古道

国道十六号線を南へ行き、山田川を越えた所、右へ入る道がある。その道を多摩少年院方面に行く車道が鎌倉古道といわれている。

京王線で車道は寸断されているが、渡って歩道専用の幅二m程の道がゴルフ練習場南側まで続き、都道五百六号線へと合流している。

昔、源頼朝も通ったという記述が新編武蔵風土記稿にはある。



鎌倉古道（緑町）

◎参考資料

- ・八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子発見
- ・新編武蔵風土記稿
- ・歴史とロマンの散歩道
- ・セピア色の風景
- ・東京都教育庁計画課
- ・読売新聞多摩版
- ・第十号ふじもり御所水の里
- ・人物はちおうじ
- ・続横山物語
- ・国土地理院地図
- ・石川日記
- ・磯沼家文書
- ・インターネット各ページ
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・昭文社

峯尾光鎮著